



下
卷
常
我
那
眉
尺
輯



遠くをゆくわが子に
あはれをこめて記す

朝四坊
信光

水もやぬりしあまのはらうら花
夏もむし死やかきつる葉のこ
縁入や雲あふてゆくくまはら
きしけり跡乃きやみたり月

否

ねーいさる

お人ち秋中いゆる

眉尺

長子眉尺りこし葉少しゆり先
ちりーと社いりけ

おちりいゆーの家ちあうり

急不

挽歌

旅辭の終りて思ふか子

葉のすかし

志ら尾

慎終り梓あふ旅是り葉少しゆり先
こちりい園他は若の玉葉連りゆり先
又いさるをちりい文宗にありて社い志ら
急不
急不
急不

ちりゆりい家ちあうり

眉尺

秋中いゆり

急不

先師を慕ふに似し其人乃其ししう
人の許しを慕ふに似し其人乃其ししう
其の許しを慕ふに似し其人乃其ししう
其の許しを慕ふに似し其人乃其ししう
其の許しを慕ふに似し其人乃其ししう

秋乃昔者 惜しむるを

徐舟

大舟や言 灯籠のしるし

喜友

提了るら かくさうるを

嵐行

いさく 向らるるや 実少き
岩崎のま つかさつ つかさつ
柿乃本に 子生を つかさつ
明のさ 指の つかさつ
茶杯の 象の つかさつ
古寺の 略の つかさつ
世の なる つかさつ

極月

鶴江

幸山

湖了

十景

大舟

幸川

古松

幸川

茶杯

幸川

梅鼓

幸川

流波

よましく帰るるや波の上
 晴波
 春中の故よりさうり秋の雨
 桑戸
 約して山岸よりさうり月未だ
 紫心
 岸の無きうんちあゝぬんち
 巴井
 夢いゆて切んとせよ菊の花
 懐年
 形も今もなきかうりうり無のま
 紫心
 秋のうんちあゝぬんち
 翠堂

冨の野の程かきさくおきか
 望後
 夕たや杉のさうり子あきさう啼
 大牛
 江初文通
 文月やその結々終のま廣
 柳魚
 枯れ糸りこいさう
 証大鏡
 衆之
 夕くれを老のえさう
 木樵か
 西和
 下風子田毎白うや
 川
 吳川
 まり子あきさう晴か
 山田か
 江左

夕朝の秋身と暮るあり 時馬 字乙

四井庵

庭先の辞

夕光と暮るくつむい老より家子
生るる地下の人とあふるる月を
中世の光陰いともあふるるや一とせしや
はあめ月十たのさの近く暮るる
又のる憶老り暮るるあふるる

秋乃夜を暮るや 友子あふ

土壺庵

石明

小祥忌 暮るる庭を

松壽庵

夕光かき 庭もあふる 暮るる

夕暮晚秋

